



子宮頸がん検診の場合、米国では84%の女性が受けているのに、日本では21%です。とくに、20歳代の女性で子宮頸がん検診を受けているのは11%という極めて低い状況です。

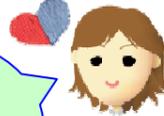
【がん検診受診率の比較】



子宮頸がんの原因は、ウイルス感染で、若い人に増えています。ふつうのがんは、年齢とともに増えますが子宮頸がんのピークは30歳代後半です。早期がんでは症状は出ないので、検診が必要です。

子宮頸がんは、ウイルス（ヒトパピローマウイルス）感染が主因で、過去20年でみると、20～30代に急増しています。妊娠をきっかけに、子宮頸がんが発見されることも珍しくありません。検診は、子宮の下部の細胞をこするだけの簡単なもので、数分で終了します。乳がんも、女性ホルモンの影響を受けるため、一番多いのは、女性が一番いそがしい閉経前の40歳代後半です。

検診を受けましょう！



## 子宮頸がん検診の検査



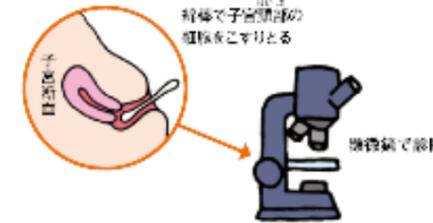
### ① 問診

初潮の年齢や生理の具合、妊娠・出産の経験、自覚症状などを問診票に記入します。その上で、診察室で医師からの質問に答えます。



### ② 視診 ③ 内診

内診会上がっていただき、医師が子宮頸部の状態を目で確認し、子宮全体と卵巣・卵管などを触ってチェックします。



### ④ 細胞診

子宮頸部の表面（結膜）を綿棒などで軽くこすり取った細胞を顕微鏡で調べます。このときほんの少し出血することはあっても、痛みなどはほとんどありません。



### ⑤ 検査終了

診察時間は、10～20分です。約2～4週間で、細胞診の結果も含めた検査結果がわかります。

## 乳がん検診の検査



### ① 問診

初潮の年齢や妊娠・出産の経験、前回の月経などのほか、乳房に痛み・熱感・かゆみなどがあるか、これまでに乳房の病気をしたことがあるか、血縁の家族に乳がん患者はいるか、などを問診票に記入します。その上で、診察室で医師からの質問に答えます。



### ② 視触診

医師が、左右の乳房に差がないか、胸のしこりやひきつれがないかなどをチェックします。左右の胸だけでなくわきの下もていねいに触ってリンパ腺のはれを調べます。



### ③ マンモグラフィー

マンモグラフィーは、透明なプラスチックの板で乳房を圧迫して撮影します。人によってもがいますが、痛みを感じることもあります。生理前の1週間をさけるとよいかもかもしれません。この検査で体に受ける放射線の量は、1年間に太陽や地球から自然に受けている放射線量の50分の1程度なので、放射線による体への影響はほとんどありません。



### ④ 検査終了

診察時間は10～20分です。乳房を圧迫している時間は数十秒です。約2～4週間で、検査結果がわかります。